Admission Policy　アドミッション・ポリシー

保健学研究科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、崇高な倫理観と科学的視点を持ち、人類の健康と幸福に貢献する人材を育成するために国際的にも卓越した保健医療・健康科学に関連する教育を提供することを基本理念としています。このため次のような学生を求めています。

- **明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生**
- **論理的考察力と客観的判断力を持った学生**
- **国際的視野に立って、研究・実践する能力を持った学生**
- **自らの専門性に対する誇りと協調性を持った学生**

Curriculum　カリキュラム（教育課程・修了要件等）

大学院の教育方法に関して、大学院設置基準第11条に、「大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。」と規定されています。

本研究科前期（後期）課程の修了要件については、当該前期（後期）課程に2年（3年）以上在学し、規定する単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士（博士）論文の審査及び最終試験に合格することが規定されています。

なお、前期課程及び後期課程とも中間発表を行い、研究指導の成果、研究の進捗状況を的確に把握し、その後の研究指導をより効果的に行うこととしています。

本研究科における研究指導は、入学した学生ごとに、指導教員と学生との間で研究指導題目を定め、指導教員と副指導教員及び関連分野の教員により、幅広く効果的に行うほか、総合研究プロジェクトに参加させる等、研究能力の向上や共同研究の手法にも習熟できるよう配慮しています。

■ 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例

本研究科では、授業の選択の幅を広げ、単位を取得し易くするために、夜間・土曜日に開講している授業があります。この夜間・土曜日の開講科目だけで、規定単位を取得することが可能です。

■ 長期履修制度について

本研究科では、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を越えて一定の期間（前期課程上限2年; 後期課程上限3年）を加えた年数以内に計画的に履修し課程を修了することが可能な制度を設けています。

■ ティーチング・アシスタント（TA）制度について

優秀な大学院生に対し、教育補助業務を行わせ、学部教育におけるきめ細かい指導の実現や大学院生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供し、これに対する手当支給により、大学院生の処遇の改善の一助としています。

大学院生学位論文発表会

■ リサーチ・アシスタント（RA）制度について

将来、研究者となる意欲と優れた能力を有する後期課程の学生に対し、本学において行う研究プロジェクト等に、研究補助者として参画させ、研究活動の効果的な推進を図るとともに、研究補助業務を通じて研究遂行能力の育成を図ります。また、これに対する手当支給により、大学学生の処遇の改善の一助としています。

■ 学位について

本研究科前期課程、後期課程の修了要件を満たした者に、それぞれ修士（保健学）、博士（保健学）の学位が授与されます。

進路・奨学金・アクセス

主な進路（平成23～27年度修了）

【前期課程】

- 神戸大学
- 京都大学附属病院
- 大阪市立大学附属病院
- 公立大学法人奈良県立医科大学
- 京都第一赤十字病院
- 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
- シスメックス株式会社
- 武田薬品工業
- 兵庫県庁
- 神戸大学医学部附属病院
- 大阪大学医学部附属病院
- 兵庫医科大学病院
- 虎の門病院
- 国立長寿医療研究センター
- 独立行政法人国立成育医療研究センター
- 塩野義製薬
- 中外製薬

（大学・短期大学・専門学校の教員になった者26名）

【後期課程】

- 神戸大学
- 北海道大学
- 三重大学
- 和歌山県立医科大学
- 香川県立保健医療大学
- 地方独立行政法人国立病院機構　神戸医療センター
- 神戸大学医学部附属病院
- 京都大学
- 奈良県立医科大学
- 岐阜県立看護大学
- 兵庫県立がんセンター
- 兵庫県立光風病院

（大学・短期大学・専門学校の教員になった者63名）

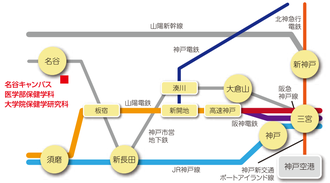
奨学金制度

本学で取り扱っている奨学金は、以下のとおりです。

1.独立行政法人日本学生支援機構
2.民間奨学団体・地方公共団体の奨学金制度
3.神戸大学独自の奨学金制度

また、奨学金の種類には、卒業（修了）後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給与」とがあります。

アクセス



【利用交通機関】　神戸市営地下鉄「名谷駅」下車、南東へ徒歩15分。
（神戸市営地下鉄「三宮駅」～「名谷駅」間約20分）

神戸大学大学院保健学研究科
〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7-10-2
TEL：078-796-4504　FAX：078-796-4509
http://www.ams.kobe-u.ac.jp/

Message　研究科長メッセージ

神戸大学大学院 保健学研究科長
木戸　良明

神戸大学は1902（明治35）年の創立以来、本年で110周年を迎えます。現在は、11学部15研究科、学生総数約16,000名からなる総合大学として日本でも有数の研究・教育機関であり、「学理と実際の調和」を理念として、進取と自由の精神がみなぎる学府であります。神戸大学は、文系・理系のバランスが良く、どちらも優れた業績をあげております。また、文系・理系の垣根が低く、文理融合の研究が展開されていることもその特徴の一つであり、新たな学問領域を生み出す潜在的な能力が高い大学です。

保健学研究科は、大学院前期課程（各学年54名）、後期課程（各学年25名）の定員があり、我が国でも有数な規模と研究推進大学としての質の高さを誇っております。専門領域としては、看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域の3基幹領域と地域保健学領域および国際保健学領域の2融合領域から構成されています。各領域では、専門的知識・能力とともに創造性に富んだ研究者としての資質を養うように心がけています。さらに、平成28年度からは大学院に助産師および保健師の教育課程が開設され、ハイリスク妊娠・分娩の管理や保健行政・国際機関で活躍できる医療専門職の養成を行います。このように保健学研究科では、高度専門人材・研究者や将来教員として働く指導的人材の養成を推進しています。

神戸大学は、世界中の様々な大学と交流を持っております。保健学研究科においても、平成24年度から実施している世界展開力強化事業においては、ASEAN諸国トップ5大学との連携の下、大学院生の短期・長期における交換留学を実施し、アジア地域における次世代保健学グローバルリーダーの育成に努めています。日本を含めたアジア地域では、少子高齢化対策が必要とされています。海外大学・研究機関、WHOなどの国際機関との連携により構築された共同研究ネットワークを活用し、アジア諸国の保健衛生課題に取り組んでいきたいと考えています。

さらに、英語教育に関しては、平成24年度から英語のみで大学院課程を修了できるコースを設置しており、グローバル化への対応を進めています。

医療分野の中では、ICTを活用した健康管理システムの構築や脳機能評価のための機器開発が強く望まれています。平成25年度からは、独立行政法人情報通信機構との間で連携講座を設立し、共同研究を進めています。また、企業等との共同研究開発事業も精力的に実施しています。今後、より学際的で文理融合型の新研究領域を開拓していきたいと考えています。

Mission & Vision　理念と目的

基本理念

保健学は心身の健康や疾病・障害に関する教育と研究を通して、人類の幸福と社会福祉の向上に寄与する実践的学問です。心身の健康や疾病・障害は個人及び集団を対象として、身体的、精神的、社会的、倫理的側面から総合的に把握する必要があります。これが神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻の掲げる総合保健医療（total health care）の基本理念です。

目　的

幅広い教養、豊かな人間性と倫理性を共通基盤として、①総合保健医療を確立するために必要な独創性と創造性を備えた研究者、②豊富な臨床経験とリサーチマインド、統率・管理能力を備えた高度医療専門職者、③臨床能力、研究能力、教育能力を備えた大学教員、④コミュニケーション能力や多文化理解能力を備え、国際保健を推進する高度医療専門職者を養成することです。

到達目標

上記の理念と目的を達成するために、5年間の博士課程を一貫したものとして捉え、博士課程前期課程と博士課程後期課程における到達目標を以下のように設定します。

前期課程では、臨床実践能力、直面する問題を多角的に分析する能力、問題の解決に必要な研究能力を涵養し、チーム医療、チームケア、総合保健医療、国際医療保健の中で活躍できる高度医療専門職者を養成する。本課程のなかに家族看護専門看護師課程を設置し、専門領域での認定等に関わる教育を効果的に取り込む。

後期課程では、前期課程において修得した分析能力、問題解決能力、研究能力を更に高度化し、創造的・開発的研究を通して新しい総合保健医療を創造・実践、教育できる独創性、創造性豊かな教育・研究者を養成する。

保健学研究科の概要

保健学
- 看護学
- 理学療法学
- 検査技術科学
- 作業療法学

他学部
- 栄養学
- 社会福祉学　等
- 教育学
- 農学
- スポーツ科学

保健学研究科

融合2領域

- **国際保健学**
  - 感染症対策
  - 保健協力活動
  - 国際開発
- **地域保健学**
  - 健康の維持・増進
  - ケアシステムの構築

基幹3領域

- **看護学**
  - 看護実践
  - 療養支援
  - 家族ケア
- **病態解析学**
  - 病因・病態の解析
  - 診断技術の開発
- **リハビリテーション科学**
  - 障害者・高齢者の機能回復
  - 生活の質向上

基幹3領域（看護学、病態解析学、リハビリテーション科学）と融合2領域（地域保健学、国際保健学）

基幹領域と融合領域との連携を通して、多角的視点に立った教育・研究が可能

看護学領域

看護学領域では、卓越した専門知識と実践能力をもった人材を育成し、医療の高度化に対応する先進的研究を通じて看護学の発展に寄与することを理念としています。特に臨地と研究をリンクしたトランスレーショナル・リサーチの実施、国際的並びに科学的な視野に立脚したエビデンスレベルが高い看護学研究の発信をするために、以下の4分野を設けています。

教育研究分野

看護実践開発学

看護実践学：看護実践技術の開発と、高度な看護実践能力の開発を目指した看護実践学に関する教育研究を行います。

療養支援看護学：療養支援が必要な健康課題や健康障害を持つ個人・家族を対象に、健康維持及び健康回復、並びにQOLの向上を目指した療養継続に必要な看護支援方法の開発、及びこれらに関する教育研究を行います。

指導教員　教　授：宮脇 郁子、塩谷 英之、石井 豊恵

在宅看護学

在宅で生活している人々の健康とQOL向上のために、在宅看護のエビデンスや理論の構築、在宅看護ケアシステムの開発に向けた研究を行います。

高齢者・認知症高齢者とその家族に対し、急性期における看護から在宅支援までを包括的に捉え、対象者を取り巻く環境やチームアプローチも視野に入れた看護支援方法の開発と理論構築を行います。

指導教員　教　授：グライナー 智恵子

家族看護学（CNS課程）

家族看護学分野では、こどもを持つ家族の健康危機への適応、あらゆる家族の家族機能の維持・向上を支援する家族支援モデルの開発を行います。また、診断・治療に関わる家族支援CNS（専門看護師）を養成しています。

指導教員　教　授：法橋 尚宏

母性看護学助産学

母性看護学分野の研究理念は、EBNに基づき臨床現場に還元可能な研究を発信することです。「周産期の安全と質保証」を中心に管理・経営学的視点まで広範囲に及びます。また、平成28年度から「助産師コース」として、助産師国家試験受験資格と修士の学位の取得を目指す教育が開始されています。

指導教員　教　授：齋藤 いずみ
准教授：千場 直美　新野 由子

病態解析学領域

病態解析学領域では、医学・保健学の観点から、健康と疾病に関する研究を進めています。その成果を世界に向けて発信し、医学・保健学、そして医療における新しい発見と進歩に寄与することを目指しています。志が高く、人間性と創造性に富み、明日の医学・保健学を開拓できる医療職者、研究者及び教育者を育成するため、以下の4分野を設けています。

教育研究分野

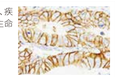
分析医科学

臨床化学、生化学、分析検査学を専門分野とする教員で構成され、病態解析学領域における分析医科学分野の教育と、病因・病態解析に関する新たな方法論の開発や再生医療に関する研究を行います。

指導教員　教　授：堀 裕一
准教授：大澤 佳代、大﨑 博之

細胞機能・構造科学

細胞・組織の機能や構造を明らかにし、生命科学の奥義をひもとくとともに、疾患の新しい診断・予防・治療法を開発するため、血液・腫瘍学、免疫組織化学、生命情報発現学等に関する教育研究を行います。



指導教員　教　授：伊藤 光宏、鴨志田 伸吾
准教授：駒井 浩一郎

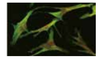
病態代謝学

疾病の代謝や神経生理機能と病態のメカニズムを明らかにし、治療法の開発を目指しています。

指導教員　教　授：木戸 良明
准教授：森 正弘

臨床免疫学

関節リウマチ・膠原病の臨床的病態研究を踏まえ、自己免疫の機序にアプローチしています。様々な新しい診断法や治療法を臨床の現場へ発信することを目指して、免疫学の真髄を探求していきます。



指導教員　教　授：桂本 照

リハビリテーション科学領域

リハビリテーションの基本理念は、「全体的な人間としての障害者の人間らしく生きる権利の回復、すなわち全人間的復権」であり、リハビリテーション科学は、その学問的基盤です。リハビリテーション科学領域では、理学療法学、作業療法学分野を中心とした教育・研究者や臨床現場のリーダーたる高度専門職者を育成することを目指しています。

教育研究分野

生体構造

発達や加齢、疾病や障害によって起こる生体の形態的、機能的変化を基礎医学の方法を用いて解析するとともに、リハビリテーションの場で行われている様々な治療の効果や影響を科学的根拠に基づいて実証し、臨床に応用していくことを目的としています。

指導教員　教　授：安藤 啓司
准教授：荒川 高光

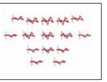
運動機能障害学

運動機能障害を臨床から細胞・分子まで幅広い視点で解析し、効果的なリハビリテーション治療を開発・検証します。また、中枢性疾患に起因する運動・高次脳・認知機能障害に対する評価法及びリハビリテーション介入技法の開発等を行います。

指導教員　教　授：藤野 英己、種村 留美、森山 英樹、秋末 敏宏
准教授：三浦 靖史、長尾 徹、野田 和恵

脳機能・精神障害学

感覚・運動・認知・精神機能等、主に中枢神経系が関わる諸機能について障害を全人的に捉え、健康で質の高い生活を営む妨げとなる疾病を基礎及び臨床科学の研究方法で解析し、障害に応じたリハビリテーション技法の開発を行います。



指導教員　教　授：橋本 健志
准教授：林 敦子、四本 かやの

健康情報科学

情報通信研究機構の脳情報通信融合研究センター（CiNet）と連携し、先端的認知科学及び情報通信技術を基盤とする新たな保健学研究に必要な基礎知識及び技術の習得並び思考力の涵養にかかわる教育を行います。

担当客員教員　客 員 教 授：Ferdinand Peper、片桐 祥雅
客員准教授：下川 哲也

地域保健学領域

地域保健学領域では、人々が暮らすコミュニティ全体の健康づくりを中心課題としています。地域社会を基盤とした医療・保健システムの開発とその実践に関する研究を通して、新しい技術・制度開発とともにグローバルな視点に基づいた政策立案にも寄与できる総合的で高度な専門的知識を持った人材を育成します。

教育研究分野

地域保健学

地域に存在する様々な問題を科学的な視点から解決するため、研究者や高度医療専門職人の養成及び地域保健・公衆衛生看護に関する総合的な実践能力と高い管理能力を持つ人材を社会に送り出すために教育を行います。また、平成28年度から「保健師コース」として、保健師国家試験受験資格と修士の学位の取得を目指す教育が開始されています。

指導教員　教　授：高田 哲、和泉 比佐子
准教授：小野 玲、中山 貴美子

健康科学

生活習慣病を中心とした疾病の予防、健康維持を目的に食事・運動・睡眠等の生活習慣を科学的に分析し、健康維持に役立つ新しい知見を明らかにします。特に、糖尿病と呼吸障害に視点を当てて研究を進めています。

指導教員　教　授：安田 尚史、石川 朗

国際保健学領域

国際保健学領域では、世界各国における健康水準格差の現状把握とその要因解明、感染症対策を中心課題とし、フィールド調査やラボ研究等の包括的な研究を実施しています。国際的な視野を持ち、かつ総合保健医療を実施することの出来る専門職者を育成します。

教育研究分野

感染症対策

本分野は、ウイルス学、細菌学、寄生虫学を専門とする研究者により構成され、流行地における感染症発生状況の調査、病原体検査やワクチン等などの予防法の研究開発を行っています。

指導教員　教　授：白川 利朗（林学技術イノベーション研究科所属）
准教授：亀岡 正典、入子 英幸

国際保健協力活動

本分野では、保健医療専門職や国際保健活動に実践経験のある専門職が、現代社会における健康問題に関して、プライマリーヘルスケアの概念を基盤に、現実的で実践的な問題解決に向けての研究に取り組んでいます。

指導教員　教　授：松尾 博哉、林 祥剛
准教授：上杉 裕子、井澤 和大、小寺さやか

国際開発

本分野では、国連ポストミレニアム開発目標の主なターゲットでもある持続可能な開発と健康の両立を、多様な環境条件や文化特性を踏まえた適正技術とともに人類生態学・公衆衛生学の視点から研究しています。

指導教員　教　授：中澤 港

Topics　トピックス・特色

POINT 1　総合大学の利点と学際的アプローチ

我が国は少子高齢社会を迎え、医療・保健課題も病院から地域へ、[disease oriented]から[health oriented] へシフトしています。健康維持・増進、障害からの回復、保健・医療制度の整備等の課題は、保健学研究科だけでは解決できません。神戸大学は文理融合型の総合大学であり、他分野との連携、分野横断的な学際的教育研究体制が柔軟に構築されています。また、学内には、地域連携センター、国際研究教育センターもあり、産学官共同研究の海外や地域への展開、成果の社会還元のチャンネルも充実しています。

POINT 2　家族支援専門看護師（家族支援CNS）コース

本学は、「家族看護学」という新しい分野のフロントランナーです。前期課程には、わが国に6校しかない家族支援専門看護師（Certified Nurse Specialist: CNS）コースがあります。CNSは、看護職の最上位の資格のひとつ（高度実践看護師）で、診断・治療に関わり、ケアとキュアを融合した高度な看護実践を展開できる教育課程を導入しています。本コースでは研究から得たエビデンスや理論に基づいた家族支援を実践でき、国際的に活躍できる高度専門職業人の輩出を目指しています。

POINT 3　英語コース（International Course for Health Sciences: ICHS）

平成24年度より前期課程の大学院生を対象に英語コース（International Course for Health Sciences: ICHS）を開講しました。平成26年度からは後期課程の大学院生にもICHSが開講されました。これは、大学院生がその修学期間を通して英語のみで単位を取得し、修了することができるコースです。専任教員による英語講義に加え、ネイティブ教員による通年の講義、また、夏季には東南アジアを中心とした諸外国からの講師によるSummer Educational Programを開講しています。本コースを受講することで、保健活動を展開するためのコミュニケーション能力や異文化理解能力を有し、海外における社会・経済状態や生活様式に適合した総合保健学を創造・実践することによって、国際機関を中心に国際貢献できるより高度な保健実践専門職者を養成することを目的としています。

POINT 4　海外研修

大学で修得した知識とスキルをより実践的なものにするとともに、チャレンジ精神やコミュニケーション能力を養うために、東南アジアの2カ国（タイ、インドネシア）の5大学と提携し、大学院生の双方向型の交流を実施しています。「ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」と名付けたこのプログラムでは、海外提携校における既存カリキュラムを活用した講義・実習、附属病院・研究室での実地研修等を行うとともに、所定の単位も認定されます。

POINT 5　前期課程における保健師と助産師の教育

本学では、平成28年度より前期課程において保健師及び助産師を養成します。保健師教育では、優れた研究能力とエビデンスに基づく確かな実践力を備え、学際的及び国際的な視座から地域社会の複雑多様な公衆衛生上の健康課題を解決できる高度専門職としての保健師を養成します。助産師教育では、正常範囲の助産診断技術に加え、ハイリスク管理、管理経営能力、国際的視野、研究能力に優れ、自律した専門性を有し幅広く社会貢献できる高度専門職としての助産師を養成します。